

令和3年度 調布市立滝坂小学校 学校評価報告書 (学校長 小林 美也子)

学校の教育目標	
◎よく考え すすんで学習	○強いからだ やりぬく心 ○人に親切 仲よく協力 (◎=今年度の重点)
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
目指す学校像【「つくる」「つながる」「つたえる」学校】 ◇「つくる」……児童が変化する社会を主体的に生きるために必要な資質・能力を育成する教育活動を創造する。 ◇「つながる」…①児童の学びと成長のために、教職員・児童・保護者・地域がつながる。 ②互いに学び合い、助け合い、高め合いながら教育活動を進められるように、教職員同士がつながる。 ◇「つたえる」…透明性の高い学校を目指し、教育活動の取組を積極的に保護者、地域に発信する。	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>						
	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①主体的に考え、議論する道徳授業を年間 25 の価値項目で展開する。	A	①授業規律を校内で統一し、定着を図る。秩序ある落ち着いた学習環境の中で児童の「よく考え」「真剣に学ぶ態度」を育成する。	A	①「早寝・早起き・朝ごはん」を身に付けさせ、望ましい生活習慣を確立させる。	B
	②月 1 回の校内委員会及び週 1 回の生活指導夕会で情報共有を十分に行い、全教職員による児童への組織的対応を行う。	B	②週案を作成し、授業時数の確保に努める。計画的・意図的に指導を行うとともに、日々の振り返りを必ず行い、授業力を向上させる。	B	②体育科の授業における運動量確保、外遊びの奨励、運動の日常化で健康な心身を育む。	C
					③調布市感染症予防ガイドラインに基づいた指導を全校で徹底して行う。	B
学校関係者評価	(2) 成果 (数値目標に対して)	評価	(2) 成果 (数値目標に対して)	評価	(2) 成果 (数値目標に対して)	評価
	①道徳の授業において、年間 25 の価値項目すべてを指導することができた。	A	①保護者アンケート「学習のルールが守られている」96%	A	①保護者アンケート「体力向上・健康を保つための指導」91%	B
	②保護者アンケート「楽しく充実した学校生活を送っている」94%	B	②保護者アンケート「工夫してわかりやすい授業」91%	B	②体力テストの結果は例年とほぼ同じであった。	C
					③ガイドラインに基づいた指導を徹底した。	B
	・コロナ禍でなかなか授業を見られなくて残念だが、道徳の授業や日頃の生活指導の成果が感じられる。 ・子供たちが笑顔で楽しく学校生活を送っている。先生方の協力体制も整っている。		・各学級とも大変落ち着いた。学習規律が浸透し、児童がよく考えて授業に取り組んでいる。 ・先生方は忙しい中、授業の準備をよく行っている。ICT 機器の活用については、クラス間の差がないようにしたい。国語教育の充実にも期待している。		・挨拶に力を入れて指導していることがよく分かる。生活習慣の確率はご家庭と協力して行っていくとよい。 ・コロナ禍で運動量が減っているのではないかと。感染症対策を図りつつも、ぜひ体力向上に努めていただきたい。	

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>						
	4 保護者・地域との連携	5 環境教育の充実	6 特別支援教育の推進			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①ホームページによる発信を適宜行い、保護者・地域に日々の教育活動を周知する。	A	①外部講師を招聘した授業を計画的に実施する。	B	①様々な行事、日常的な活動の中で特別支援学級と通常学級との交流を行い、多様性尊重への理解を図る。	B
	②地域学校協働本部を生かし、地域の外部人材を有効活用する。	B	②環境学習の学年ごとの成果を年度末に作成する。	B	②ひだまり教室(校内通級教室)での指導を在籍学級での指導及び支援に生かしていく。	A
	(2) 成果 (数値目標に対して)	評価	(2) 成果 (数値目標に対して)	評価	(2) 成果 (数値目標に対して)	評価
① HP を毎日更新することができた。	A	①今後も計画に沿って授業を行っていく。	B	①行事や授業で一層交流していきたい。	B	
②「地域と協力した教育活動」93%	B	②総合的な学習の時間で成果を確認できた。	B	②通級の指導が支援につながった。	A	
学校関係者評価	・ホームページの更新を楽しみにしている。コロナ禍でなかなか学校内の様子を見られないので大変嬉しい。 ・地域の方が学校に協力的である。コロナ禍で今までのように活動できないことが残念だ。		・講師の先生からご指導をいただいたことを、先生方が日頃行う授業に生かして行ってほしい。 ・学習のまとめを校内に掲示してみんなで見られるようにするとよい。		・給食時の交流はできなかったが、授業や行事での交流は行うことができた。今後はコロナ禍における交流方法を考えて行ってほしい。 ・通級の指導法を保護者も参考にしていきたい。	

人材育成・組織運営	
自己評価	ア) OJT の充実……主幹教諭をリーダーとし、若手教員を対象とした OJT 研修を実施し、大きな成果を上げた。 イ) 校務分掌の計画的推進……「運営委員会」を中心とした組織運営を行い、職員会議の回数を減らすなど、合理化を図ることができた。 ウ) 服務規律遵守の徹底……年間計画に沿って定期的に研修を実施し、服務事故 0 を達成できた。 エ) ライフ・ワークバランスの推進… SSS や副校長補佐、校務支援システム、ボランティア等の有効活用により、在校時間の縮小を図ることができた。
学校関係者評価	・OJT 研修によって、先生方が互いの長所を生かして授業力を向上させていることが分かった。これからも続けて行ってほしい。 ・まじめな教職員が多く、服務規律が守られている。 ・仕事熱心なので在校時間が長いのではないかと。地域力を活用して、在校時間の縮小を図ってほしい。

中期的な経営目標の達成状況	
1	・道徳は、25 の価値項目で十分に指導できたが、全教育活動の中で道徳教育の充実を図るところまでは至っていない。
2	・国語科の校内研究を行うことで、「よく考え」「真剣に学ぶ態度」は育成できている。全教員が効果的に ICT 機器を活用した授業を行えるようにしたい。
3	・望ましい生活習慣の定着は挨拶を含め、定着しつつある。コロナ禍ということもあり、運動量の確保は今後の課題である。
4	・地域の人材についてはできる範囲で活用することができたが、今後 ICT 機器を利用してより一層工夫していきたい。
5	・総合的な学習の時間における環境教育については、講師の先生のご指導のもと大いに成果を上げることができたが、より計画的な実施を図っていく。
人・組	・授業力は確実に向上しているが、次年度以降更なる向上を図りたい。校務分掌の改革により、組織的な対応ができるようになってきた。

次年度の重点課題	
○一人一台モバイル端末や ICT 機器を効果的に活用した授業力向上	○運動量の確保、運動の日常化 ○校内研究 (国語科)、OJT の一層の充実